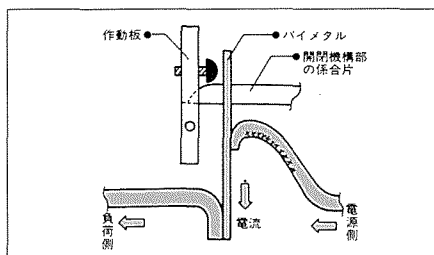


引外し方式

1. 熱動形

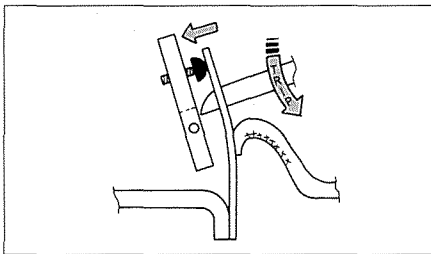
小形で構造が簡単であり、小定格電流、低遮断容量の配線用遮断器に適した方式です。

●熱動形の構造



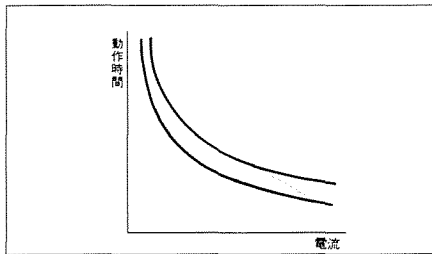
構造は図のようになっております。電流は、電源側からバイメタル、負荷側へと流れます。

●過電流が流れた場合



定格電流以上の電流が流れた場合、バイメタルが加熱され、わん曲しバイメタルの先端が作動板を押し開閉機構部の係合端が外れます。これに連動し可動接点が開き、回路を遮断します。

●熱動形の動作特性

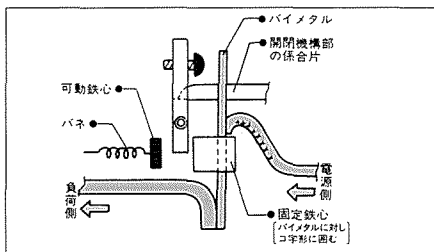


電流が大きければ、発熱量も多く、早くわん曲します。動作特性は図のように電流が増せば動作が早くなる反限時特性をもっています。

2. 熱動—電磁形

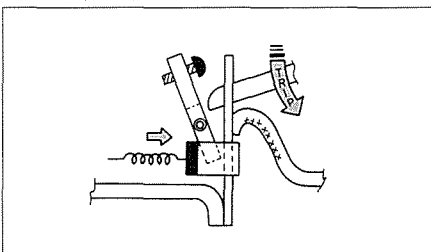
熱動形の引外し素子に定格電流の800%程度以上で動作する電磁引外し素子を加えたものです。

●熱動—電磁形の構造



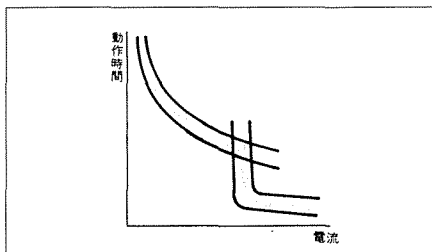
構造は図のようになっており電磁引外し素子の動作する電流値未満では、熱動形と全く同じ動作をします。

●大きな電流が流れた場合



大電流が流れる際に、発生する磁界により可動鉄心と固定鉄心が吸引し合います。この時可動鉄心が作動板を押し開閉機構部の係合端が外れ、これに連動し可動接点が開き回路を遮断します。

●熱動—電磁形の動作特性

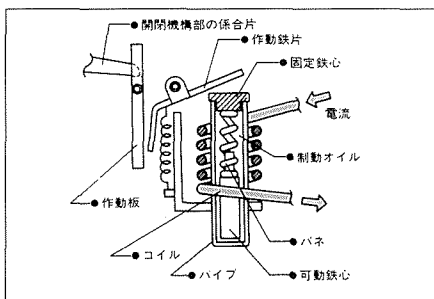


動作機構上、熱動動作(時延引外し)領域と電磁動作(瞬時引外し)領域の和で表されます。

3. 完全電磁形

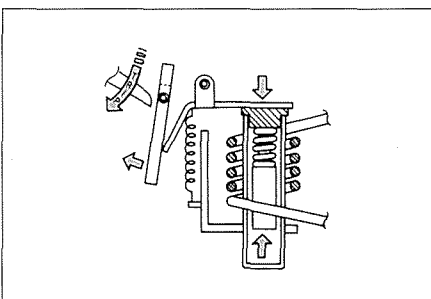
引外し素子にオイルダッシュポットを使用したもので、小容量でも容易に製作できる特長をもっております。

●完全電磁形の構造



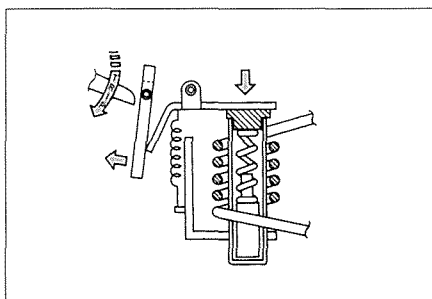
構造は図のようにパイプにコイルが巻かれており、このコイルに電流が流れます。

●過電流が流れた場合



過電流がコイルに流れますと可動鉄心が固定鉄心の方へ吸引されます。吸引されると磁気抵抗が減少し作動鉄片が吸引され作動板を動かして開閉機構部の係合端が外れ、これに連動し可動接点が開き回路を遮断します。

●大きな電流が流れた場合

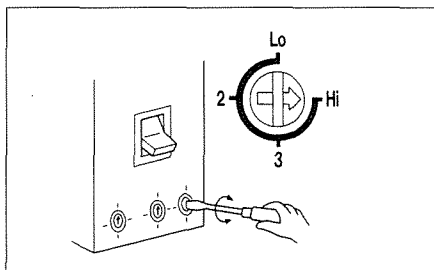


大電流がコイルに流れた場合は、可動鉄心の動きをまたず、瞬時に作動鉄片が吸引され作動板を動かします。

4. 熱動—可調整電磁形

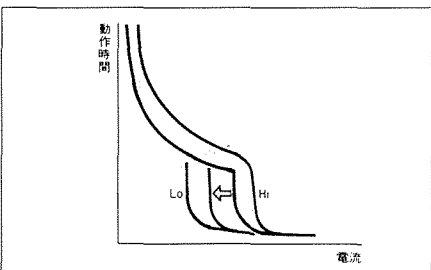
熱動—電磁形で電磁動作の動作電流値を可変できるようにしたものです。

●電磁動作電流の調整方法



[HI] から [LO] まで4段階もしくは5段階に調整できます。各極とも同一位置に合せてください。

●熱動—可調整電磁形の動作特性



工場出荷時は [HI] の位置に合せております。

●メリット

電磁動作(瞬時引外し)電流値を可調整にすることにより、電動機等の始動電流では動作しないように、またトランス二次側の電力ヒューズとの協調、下位の遮断器との保護協調等を容易に実現することができます。

(注意)
1200Aフレームまではカバーに調整ダイヤルがついていますが1600Aフレーム以上は遮断器内にありますのでカバーをはずして調整してください。